



日誌
秘

電報

次長宛

猛參電第二五八號

八

一

三

〇

九

四

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

猛部隊參謀長

猛部隊參謀長

昭和二十八年八月三

目下第五十一師團各方面共平穩ナルモ「サラモア」ニ對シ敵ノ

砲撃ハ依然繼續セラレアリ

大場挺進隊ハ十日十三時三十分三叉路峠ヲ出發ス

(終)

同誌用

電報

八一三

一六二〇〇
二〇〇〇
三〇〇〇
四〇〇〇
五〇〇〇
六〇〇〇
七〇〇〇
八〇〇〇
九〇〇〇
一〇〇〇〇

昭和一八八一三

猛部隊參謀長

通電先 次長剛

參考

猛部隊第二七六號

八月九日十三時「B-17」一〇機「P-138」一五機「B-125」

二〇機計四五機「クハト」「マブルグ」間ヲ銃撃ス

「マブルグ」橋梁小破 歩兵ノ通過ニ支障ナシ

人員ノ死傷調査中ナリ

(終)

電報

ニニニ
三三三
〇〇〇
〇〇〇

昭和一八八一

猛部陸參謀長

通電先 次長 剛洋 「セン」 眞? 教飛

猛參電第二七五號

八月十一日二十三時敵大型一機「マダン?」ノ機橋及附近ノ舟艇ヲ
銃撃セルモ友軍ノ高射砲威嚇射撃ニ依リ「ジャングル」ニ數發投
彈シ遁走ス損害ナシ
八月十二日九時「エリマ」附近ニ、三四銃撃サル雲低ク敵ノ機種
機數不明ナルモ「B-125」ナルモノノ如シ

(終)

203

0206



電 報

總務先 庶務課長

編 考 剛

遊樂部第二六七號

向井 参 郎 十一日 十三時 無事 参 任

竹田 官 家 参 陸 部 隊 長 参 任

三笠 官 家 参 片 桐 中 將 参 任

御 禮 書 上 ノ 件 取 次 万 事 ヲ 配 慮 相 煩 ハ シ 度

(註) 庶 務 課 参 任 御 禮 書 (註)

一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一

送 部 隊 参 課 長

昭 和 一 八 八 一 三

誌用

電報

八	一	一
二	二	二
〇	一	〇
六	三	二
一	五	〇
〇	〇	五
部	點	著
隊		發

昭和六年四月

猛部隊參謀長

通電先 次長 剛 洋戰 眞 堅

猛參電第二三五號

其ノ一未著再電要求中ナルモ取敢ズ配布ス

尙搭乗者席先方ニモ裝備シアルモノノ如キモ不明ナリ

三「タウンズビル」ニハ修理工場及五、六棟ノ格納庫且「P I 三八」

「B J 二五」「B I 二四」在庫シアリ

四落下傘部隊ハ「カーンズ」近傍ニ在リテ訓練シアリ

最近時「ニューギニア」方面ニ補給サレル重爆ハ主トシテ「B-124」

ニシテ右ハ「B-17」ト其ノ性能能力差ナシト

六「P-38」ハ其ノ操縦容易ナル爲當方面ニ於ケル戦闘隊ノ大部ヲ

占メアリ

七第二二戦隊ハ昨年末濠州ニ歸還セルモ約一週間前再ビ「ニューギニ

ヤ」方面ニ派遣セラレアリ

(終)

第三課

陸軍省

電報

通電先 次長 剛

猛參電第二九三號

一	一	一	一
四	三	三	三
〇	一	一	一
猛	六	九	八
部	一	三	五
隊	五	〇	〇
參	點	受	著
謀			發
長			

昭和一六年八月

第四十一師團偵察隊ノ報告ニ依レバ「ドーファ」河ハ「アバフン
 ヤン」(「アサンムグト」北方一〇軒)迄漁船
 「アサンムグト」迄大發ノ遡航ヲ許ス 「アサンムグト」上流ハ「カ
 ヌー」ト雖モ遡航稍ト困難ナリ

(終) 207

0210

(第三編)

日誌

至急秘

電

報

次長宛

八一三

一一一
二九八
三三三
点受

昭和十八年八月十四日

猛部隊參謀長

猛參電第二九六號

第五十一師團草山砲兵(野砲兵第十四聯隊第二中隊

及野砲兵第二十六聯隊第七中隊(神野大隊配屬

山砲中隊)八十一日十四時三十分—十六時三十分

ノ間「口カン」方面敵砲兵六門ヲ制壓内工門ヲ

確實ニ破壊セリ

(終)

(第二報)

極秘

日誌用

電

報

八	八	八	八
一	一	一	一
四	四	四	二
〇	一	一	二
七	四	三	一
三	〇	一	一
〇	〇	三	五
點	受	著	發

昭和一八八一四

猛部隊參謀長

通電先 次長河

(五語不明)

猛參電第二七七號(其ノ一未著ナルモ取敢ズ配布ス)

武勇山全線小斥候出沒

(2) 當面ノ敵情

(1) 武勇山陣地前方ニ砲約四門ヲ有スル約二百ノ敵陣地ト其ノ

後方ニ約八百ノ敵集結シアリ

又別ニ後方ニ兵力未詳ノ敵集結シアルモノノ如シ砲二門ヲ

有ス

(ロ)二ノ橋障地(一ノ橋南側我が設堡障地)前方ニハ迫撃砲六門ヲ有スル約五百ノ敵障地ヲ占領シアリ其ノ後方ニハ砲四門アリ又集結セル兵力未詳ノ敵アルモノノ如シ

(ハ)「カミアタム」西南約四杆ノ高地ニハ敵觀測所及五〇ノ敵アリ其ノ後方ニ兵力未詳集結セル部隊アルモノノ如シ

△六三三六〇分ノ一「サラモア」局地圖参照

右ハ只觀測所障地ナリヤ「ウエルス」方面ニ對スル兵力移動ノ徵候ナリヤ明カナラザルモ注意ヲ要ス

(ニ)武勇山正面及「カミアタム」「ムボ」中間ニテモ敵物糧投下ヲ見ル

ニ「ボブタビ」正面

松井大隊正面ハ十日午後約五〇發ノ砲撃ヲ受ケタル外斥候ノ行動
漸次活潑ナリ其ノ他ノ正面ハ大ナル變化ナシ

三「ロカシ」正面

十日木村大隊ハ中央陣地ヲ破壊セラレ兵器彈藥ノ埋没セルモノ多
ク守兵ハ岩本隊長以下一五名トナリシヲ以テ一部兵力ヲ増強シ依
然陣地ヲ確保シアルモ連日各部隊戦死傷ノ累計少ナカラズ
當方面砲兵ハ敵砲兵及觀測所ヲ制壓シ相當ノ效果ヲ收メタリ

(終)

第三編

印誌用



電報

次長宛

猛部隊參謀長

ハ	ニ	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	一	二	四	〇	〇	〇	〇	〇
一	二	一	三	五	〇	〇	〇	〇	〇
一	四	〇	六	一	〇	〇	〇	〇	〇
一	四	〇	六	一	〇	〇	〇	〇	〇
一	四	〇	六	一	〇	〇	〇	〇	〇

昭和一六八一四

猛部隊第二三三號 (一部未著再送要求中ナルモノ應提出ス)

九日夜ニ於ケル「サラモア」地區ノ戰況報

爆撃ヲ受ケタル外大ナル變化ナシ

「ボブダビ」正面馬蹄形高地ノ敵ハ陣地施設ヲ增強シツツアリ

「ナムリシグ」「ウエルス」中間高射機關銃約八一發又馬蹄形陣

地正面ノ神野大隊附近ニ約九〇發ノ砲撃ヲ受ケタルモ損害ナシ

ニ「カミアタム」「ロカン」正面ハ平穩ナリ

212

0215

大場挺進隊ノ一部ハ十六時三又路峠ニ到着シアルモ主力ハ未ダ到
著セズ

第三

「ロカシ」附近ノ敵揚陸ハ依然繼續中

三九日十一時三十分ヨリ約一時間ニ亘リ「サラモア」陸軍宿營地及

「クサー」山附近「B-124」四〇機ノ爆撃ヲ受ク

(以下未著)

目録



電報
次長宛

猛参電第三〇三號

八一四〇三〇點受
八一三七一七點發

昭和一八八一四

基兵團ノ「サラモア」方面ニ於ケル木村大隊田中挺進隊（田中少尉以下四名）ハ七日午後ヨリ九日日没ニ至ル間敵中深ク潛入シ敵ノ主要通信線タル山田山及三叉路峠方面ニ架設セル電話線ヲ各々切斷シ又第三監視哨「ロカン」監視哨西方ニ於ケル敵掃蕩ニ當リ勇戦奪斗ロク擾亂ノ目的ヲ達シ歸還セリ

214

（終）

0217

第三編

日誌用

秘

電報
次長宛

猛參電第三九九號

第五十一師團方面ノ狀況

一 八月八日ヨリ十日間ニ至ル間「フランスヨ」河岸及「ボブダ

ビ」高地北側地區ニハ敵部隊ノ進入ヲ認メズ

但シ「ボブダビ」西方高地稜線上ヲ移動スル五、六名ノ敵ヲ

目撃セリ

師團ハ更ニ同方面ノ敵情偵察中?

八	八	八	八
一	一	一	一
四	四	三	三
〇	〇	二	一
六	一	三	七
ニ	〇	四	四
〇	〇	〇	〇

猛參部隊參謀長
點受著發

昭和一八八一四

ニ「サラモア」ヨリ屢々観測セルニ十二日「ガタ」北側ニ明瞭ナル幕舎ヲ發見セリ

ニ十日ノ砲撃ニ依リ木村大隊中央附近陣地殆ど潰滅シ中隊長以下一五名トナリタルモ其ノ後生埋トナリタル九名ヲ發掘救助セリ

(終)

第三課

日誌用

電報

次長宛

八二四一六三〇發
八一五〇五三著
八一五〇六一受
八一五〇六一點

猛部隊參謀長

電報第三三一號

第五十一師團方面ノ「ボイシ」占領部隊タル木村大隊ハ十二日夜以
來攻ノ猛攻ヲ受ケ敵ハ我方陣地間隙ヨリ進入苦戦中ニシテ師團ハ步
兵第二百三十八聯隊ノ一部約一五〇ヲ増援中ナリ目下師團ニ豫備隊
一兵ヲナシ

「アエ」ヨリ歩兵第百十五聯隊ノ約五〇ヲ招致中

(終?)

昭和一八六一

0220

217

日誌用



電報

昭和一八八二五 兵總復寫

八一三、一五、一五、一四、二、著

兵站總監宛

猛部隊軍医部長

猛医電第一一四號

七月患者報告

一、新患總數 戦傷三四七、傳染病七、マラリア六四四、其他五四六八計一二二六二

二、死亡總數 戦死及戦傷死六六、マラリア一五三、其他

五九、計八七四

三、痊愈總數 戦傷二四、マラリア六三三七、其他三三六九

計九七三。

四、 Dengue 熱 二、六。

五月間一日平均人員三八七。(報告期提出部隊計)

六月末現在衛生機関收容患者数

戦傷九七、マラリアニ三七四、其他ニ一九、内譯不詳

二七九、計四九四。

七、後送患者数

戦傷三〇三、マラリア五〇五、其他三七九、計一、一八七。

八、治癒後送患者数 五三二。

本報告ハ軍直轄部隊 第二十師團 第四十一師團及

(秘)

秘

電報
次長宛
猛參電第三三〇號

猛部隊參謀長

昭和十八年八月一日
八時一十分發
一五〇五五〇
一〇六一五〇
一五四〇點

基兵團「サラモア」方面ノ戰況(十二日)

一十一日制壓セル敵砲兵六門ハ十二日全ク沈黙
セシメ「サルス」湖附近ニ砲兵位置ヲ確認シ得
ズ

二十二日十八時「ロド」附近ノ自動車三、牽引車

一ヲ制壓運轉不能ニ陥ラシメタリ

三草山砲兵一門「ホグダビ」迫撃砲及後方ノ

220

0223

砲兵ヲ制歴シタルコト確實ナリ

(終)

221

0224

日誌
用紙

第三課

昭和一六年六月

電報

次長宛

八	一	一	一	一
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一
七	五	三	九	二
一	四	五	二	〇
〇	〇	六	〇	〇
點	受	著	發	

隊參謀長

猛參電第一八二號(電註、再電要求ノ爲遲延ス)

七月二十九日ヨリ八月四日迄基兵團「サラモア」地區ノ射耗彈數左ノ?

如シ

小銃實包	二〇箱	機關銃彈藥	四〇箱
重擲彈筒彈藥	一一〇〇	手榴彈	六四〇
大除砲彈	六〇	山砲彈藥	一一〇
迫撃砲彈	八〇	歩榴彈	八〇

十加彈 六〇
高射砲彈 一〇〇
爆藥 二〇 應

十五榴彈 三〇
二〇耗高射機關砲彈 二〇〇〇

(終?)

1223

0226

第 一 課

秘 用

秘

電 報

通 電 先 次長 剛

猛 參 電 第三二八 號

八	一	一	一
一	一	一	一
九	〇	〇	七
四	四	一	四
六	五	一	〇
點	受	著	發

猛 部 隊 參 謀 長

昭 和 一 六 六 一 六

「ハーデンベルグ」
 「フィンシュ」西北方五〇紵
 「フィンシュ」
 「マダン」
 「フィンシュ」
 「ラエ」間ノ兵隊
 地誌圖ニ依ル

「ハーデンベルグ」
「フィンシュ」間行程約八〇紵ニシテ川ノ

224

0227

徒涉概不能ナリ。全行程ノ三分ノ一ハ草原ニシテ敵機ノ哨戒ニ
メテ活潑ナル爲行軍ニハ注意ヲ要ス。部隊全行程通過ノ爲ニハ約
七日間ヲ要ス。一「ボガジム」一「フィンシュ」間ハ約三週間。

二「ハーデンベルグ」一「カノミ」間約一、二軒ハ焼野多ク「カノミ」
一「ラコサ」間約三〇軒ハ大部分高サ一米ノ草原ニシテ共ニ部隊
ノ行動ヲ上空ニ暴露スルモ「ナンダー」一「カノミ」間及「ワリシ
ガイ」一「アゴ」間ニハ密林アリ

三「ツツコナ」以南ハ密林ニシテ道幅約一米行軍、宿營共ニ容易ナ
リ

四「ソンプ」河ハ河口上流百米附近ノ水深九〇浬ニシテ徒涉可能ナ
リ

沿道ノ土民ハ逃亡シアリ

(終)



電 報

次 長 宛

秘 密 電 第 三 一 二 號

一四一四一五發
一〇九一五著
一〇四一五受
一三〇七點

猛 部 隊 參 謀 長

昭和一八八一六

「サラモア」附近ノ敵海空狀況

「サラモア」「ラエ」ニ對スル敵ノ空襲ハ八月ニ入り依然大規

模ナリ 即チ一日「ラエ」大型三四機 中型二機

二日「ラエ」大型一五機 損害大發六

七日「サラモア」大型二一機 損害野戰倉庫破壊（軍需品ハ分

散シアリシ爲被害小）

九日「サラモア」大型四〇機 損害師團司令部小破

十日「サラモア」大型三六機 損害小銃一〇〇 機関銃二

輕機二〇破壞 被服糧秣若干炎上

飛來敵機總數ハ七月下旬ニ比シ若干減少セリ

「マダン」「フィンシュ」附近ニ於ケル舟艇 飛行場攻撃

道路作業妨害増加セリ

ニ敵ノ空輸ニ使用シアル輸送機一日平均「シツシム」「ボブダビ」

方面四機 「ガタカサル」「ムボ」方面二機ナリ

ニ「ナツソウ」灣附近敵船艇ノ出撃ハ大ナラズ七月二十日「ボイ

ン」上陸前後「ナツソウ」ニ出入セル大發ハ合計約五〇隻アリ

シモノノ如ク今日迄ニ至ル迄確認セルモノ八月一日

大發九隻 二日海上「トラック」(四〇〇噸級)一隻
十一日海上「トラック」四隻ニシテ何レモ軍需品ヲ輸送シアル
モ火砲及同彈藥ト判斷セララル

(終)



極秘

電報
一六〇〇〇〇
一〇〇〇〇〇
一〇〇〇〇〇
一〇〇〇〇〇
一〇〇〇〇〇

昭和一八八一六

次長宛
猛部隊
參謀長

猛參電第三六三號

基兵團十四日「サラモア」方面状況

一十四日ノ猛懸壁ニ依リ椰子高地北方陣地ノ守兵壊没シテ全滅ニ奪

取セラル 椰子陣地ハ辛ウジテ確保シアルモ三方面ヨリ猛攻ヲ受

ケアリ

ニ今朝大暴大敗斷道後既定計盤ニ悉キ「カミアタム」「ウスルス」

陣地ヲ撤シ小倉山一草山一山田山ノ線ニ新陣地ヲ構成スル如ク企

圖シアリ

(終)



日誌
秘

電報
次
宛
猛
部
隊
參
謀
長

八	一	四	一	一	四	四	發
一	一	一	一	一	一	一	一
共	四	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一
〇	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

昭和一八八一六

猛參電第二七七號（八月十四日配布未著ノ分）

十一日十三時迄ニ知得セル基兵團ノ「サラモア」方面ノ戦況左ノ如シ

「カミアタム」方面

(1) 十日十三時頃ヨリ斷絶的砲撃ヲ受ケタル外大ナル變化ナシ

（以下十四日配布）

目録用

電報

次長宛

八一 八一
一一 一一
一六 一六
二〇 二〇
二五 二五
三〇 三〇
三五 三五
四〇 四〇
四五 四五
五〇 五〇

陸軍部 陸軍部 陸軍部 陸軍部 陸軍部 陸軍部 陸軍部 陸軍部 陸軍部 陸軍部

猛参電第三五二號

十三日七時五十分―八時四十分ノ間敵ノ「B―一七」二五 「B―

二四」四四 「B―二六」九 「P―四〇」二〇ヲ以テ主トシテ第

五十一師團司令部及「サラモア」飛行場砲兵山附近ヲ銃爆撃ス之ガ

爲師團司令部附近ノ山形改マル 但シ損害僅少

昭和一八八一六

(終)

231

0234

日誌用

電報

へ
一五三二一
一六八七〇
一〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇

昭和一八八一六

狂部 參謀長

通電先 次長 剛 眞 「サラモア」 洋戰 變

狂參電第三六一號

土民ノ言ニ依レバ「グルフ」(「カイナンツ」東南方六〇軒)ニ敵

進 出シ 逐次増加シアリ

十二日敵機六ハ「グルフ」東北方ニ於テ物糧ヲ投下セリ 「グルフ」

ノ敵ハ屢「オンガ」(「カイナンツ」東方四〇軒)附近迄往來シ

アリ

232

0235

「グループ」新設飛行場ハ同地監視哨臺地ノ東北方「マイカム」河右岸ニ在リハ第二十師團ノ報ニ依ル

「グループ」ノ敵ハ「ラム」「マイカム」河南岸ニアリテ敵ノ警戒部隊ノ一ト判断ス

眞部隊ハ敵ノ「ワウ」「マリリナシ」「グループ」「カイナシ」間自動車道構築ノ有無ヲ搜索セラレ度

（終）

印
誌
用

電
報

通電先 次長剛

猛参電第三六四號

昭	和	一	八	八	一	六
八	一	五	二	一	三	〇
六	二	六	八	七	三	五
一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
猛	部	隊	参	謀	長	
			照	野		

一 本年一月頃「ワバク」(バーゲン)西北方ハ口料)ヨリ「イモース」

(「カカラワリ」河上流「アワイン」東方五料)ニ來レル土民兵

ノ言ニ依ル「カカラワリ」河上流ノ狀況(濠洲一〇〇萬分一

圖ニ依ル)

ハ「イモース」ヨリ徒歩約一週間ニテ「アイヨリン」(「アワイン」

南方六ヶ料)ニ到ル 其ノ間 部落ナク 第六日 目ニ

マラスムレ河ヲ横断ス

(2) マラスムレ河ハ處々ニ龍アリ

ニカニワリレ河ハアウインレ迄大發ノ翅航ヲ許ス

(第四十一師團偵察)

(終)

日誌用電

報

通電先 剛

参 考 次長 三一 旋四 船司 洋

猛参電第三五五號

猛部隊参謀長

昭和一八
八五二一五
八六九四〇
八六九四〇
八六九四〇
八六九四〇
八六九四〇
八六九四〇

一八月十三日二十三時月明ニ乘ジ「ホイグ」一機「ハンサ」ニ、

同ジク二十三時三十分頃「ウリゲン」地區ニ來襲

「ハンサ」ニ於テ爆彈投下 機帆船寶悪丸 船長負傷

船員二名輕傷 船體小破スルモ 細部ハ不明

ソリゲンレニ於テ、碇泊中ノ漁船三隻、
掃射ヲ受ケタルモ、人員異狀ナシ、
船體輕微ナル損傷ヲ受ク

ニ、パンサレニ於テ、マナム島ヲ十分間ニ亙リ偵察「マナム」

「マイルカール」バクバク島航路ニ著目シアルモノ如シ

三重ハ益々損害防止対策ヲ強化シ遺憾ナキヲ期ス

(終)

237

0240

第三課

秘

電報

八	六	六
一	六	一
七	二	一
〇	一	六
猛	三	四
部	〇	〇
點	受	著
隊		發

昭和一八八一七

通電先 次長 剛

猛參電第三八一號

第二十師團ノ水井中隊へ一小隊及憲兵下士官以下六名（ハ「ワイム
 リブ」一「ベナベナ」道偵察ノ目的ヲ以テ「ラム」河ヲ渡リ「ハサウ」
 「ベナベナ」北方ニ〇軒）ヲ偵察十三日夜歸還途中「ウイサ」ニリ
 イムリブ「南方」ニ於テ敵ト交戦セリ
 戦果 死體二〇、負傷多致（目撃セルモノ）

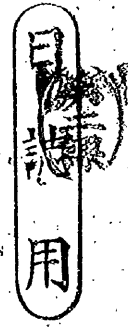
我方損害 戦死二、生死不明者二

(終)

239

0242

地方誌



電報

通電先 次長 剛信 洋戦 襲

猛勢第三七九號

第二十師團ノ報告ニ依ル「ラム」河「ベナベナ」「ハーゲン」地
方ノ狀況

「ベナベナ」「ハーゲン」對面敵兵力ハ二一三大隊ヲシテ其ノ
配備左ノ如シ

「ハーゲン」附近 大隊「ブンジ」二十六日「チジブ」附

ハ	ハ	ハ	ハ
一	一	一	一
六	六	六	六
二	二	二	二
〇	八	六	二
三	三	三	〇
〇	〇	三	〇

猛勢部 隊 參謀長

昭和一八八一セ

240

0243

近一中隊「ハサコウ」(「ベナベナ」北方二〇軒)二十九日

中隊、「ベナベナ」附近ニ一大隊、「レボナ」(「カイナ

ン」北方三〇軒「ラム」河左岸(附近ニ一中隊、「カイナ

ン」附近ニ一中隊

ニ「クミヤン」(「カイナンズ」北北東一五軒)ニ改兵約二〇

無線機一アリ

「ラム」河左岸ノ政監視部隊據點ハ「レボナ」「ハサウ」「ブ

ン」ニシテ何レモ「ラム」河ヨリ「カイナンズ」「ベナベナ

「チンブ」ニ到ル主要ナル道路ヲ扼ス

「ラム」河河谷ハ七月二十日頃ヨリ殆ド毎日降雨アリ目下稍

増水流木多ク徒歩稍々困難ナリ「ケセワ」(「コロバ」東方八

軒)附近ヨリ「トシブ」東方一五軒ニ亘ル間ニ九箇所ノ徒歩場

アリ七月中旬頃其ノ大部ハ水深一、五米流速二、三米ナル

モ水深七〇〇? 瀬流速三〇〇? 瀬ナルモノアリ

其「ケセロ」附近ヨリ上流「ラム」河右岸ハ身長大ナル蘆密生セ
ル草原地帯ナルモ處々ニ疎林竝ニ椰子林アリ小部隊ヲ秘匿シ得

六「ビスマートク」山系ハ拂曉時雲霧ナリ時ニ片雲現ル八時頃ハ山

頂ニ雲生ジ十二時頃五合目迄追リ爾後降雨トナル 夜間ハ五合

目以上雲ニ蔽ハル「ボンボ」(「トンプ」東方一〇軒)對岸地

帯ハ通過十五時一十八時ノ間雷雨アリ

(七月十五日ヨリ同二十一日ニ亘ル狀況)

七「ラム」河右岸草原地帯ニ「マラリヤ」蛟「ブト」赤虫等多ク

赤虫ハ大サ蚤ノ約四分ノ一「ブト」ノ如ク痒シ「スナウラ」

「コロバ」及真ノ國北方地方山盛アリ

(終)

第三課

日誌用



電	報	一	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇
電	報	一	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇
電	報	一	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇
電	報	一	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇
電	報	一	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇

次長 砲 陸 部 隊 参 謀 長

陸 部 隊 参 謀 長

第五十一師團方面ノ七月中ニ於ケル兵力消耗状況ハ先般週報セルモ

現在尙一日平均損耗(戰病死者、戦傷病者、後送患者ヲ併セ含ム)

約五〇名ナリ

(終)

昭和一八八一七

第三課

秘

電 報

通電先 次長 剛

八	一	四	一	五	〇
一	七	〇	六	一	〇
一	七	〇	六	一	〇
一	七	〇	六	一	〇
一	七	〇	六	一	〇
一	七	〇	六	一	〇

昭和一六八一七

参謀長

猛参電第三一六號 電註其ノニ未著再電要求中ナルモ提出ス

行軍上相當ノ妨害ヲ受クベク完全武装セル部隊ハ約七日ヲ要スル
モノト判断セラル

一「ハーデン」一「カノミ」ノ間約一五軒ノ焼野ニシテ全然遮障物

ナク「カノミ」一「ラロナ」ノ間約三〇軒ハ平均一米少草原ニシ

テ共ニ部隊ノ行軍ヲ暴露スルモ「ナンダ」一「カノミ」間及「ワ

シンガイ」一「アゴ」ノ間ニハ密林アリテ部隊宿營可能ナリ

三、一ラエニ以南ハ密林ニシテ輻一米行軍及宿營共ニ容易ナリ

四、一マスウエシブレ河ハ干潮時一・三〇ニシテ徒涉點ナク「ソング」

河一テワエニ河ハ共ニ上流一〇〇一・一五〇米附近水深〇・五〇ニシ

テ徒涉可能ナリ

一、ブミ一河ハ河口五〇米附近水深〇・七米ニシテ徒涉可能ナルモ

上流ハ徒涉不可能ナリ

一、マーベニ河ニハ渡船ハ大發ナリ

其ノ他ノ河ハ水深殆〇・五〇米ニシテ何レモ徒涉可能ナリ

武沿道ニハ部落アルモ土民ハ山中ニ逃避シ物資ノ調辨困難ナリ

(終)

日誌
秘用



昭和一八八一七

電報

ハ	ハ
一	一
七	七
一〇	一〇
〇八	〇七
〇三	〇〇
〇〇	〇五
〇〇	〇〇
點	著
受	發

猛 部 隊 參 謀 長

通電先 次長 襲 眞

猛参電第三七三號

十五日十六時迄ノ「サラモア」附近戦況

一 木村大隊正面「ボイシ」高地十四日八時 十二時ノ二回ニ互リ

敵ノ機關銃 機關砲 砲兵等ノ集中射撃ヲ受ケ又七時頃山田山

南端附近陣地ハ敵ノ猛烈ナル銃爆ヲ受ケタリ、目下同大隊ハ

概ネ山田山南端第一「ロカン」嶽ヲ確保シ十五日朝ヨリ新ニ

246

0249

兵第二百三十八聯隊第三大隊長ノ指揮スル約一中隊増加サレ其
ノ右翼ニ連繫シアリ 木村大隊十三日ヨリノ判明セル損害

機關銃二 迫撃砲一破壊 戦死五九 負傷二〇

「ボブダビ」椰子高地ニ對スル敵ノ攻撃ハ砲撃ヲ伴ヒ熾烈ニ
シテ相當ニ損害ヲ蒙リ一角ヲ辛ウジテ保持シアリ 機關銃二

輕機五 破壊

「タンブ」山正面潜入斥候ノ報告ニ依レバ「ロミン」方面ヨリ

「タンブ」山方面ニ通スル自動車道路發見ノ報告アリタルモ目

下更ニ調査中

「ウエルス」警備隊ノ報告ニ依レバ兵力未詳ノ敵「ジェフレ」

附近ニ集結シアリト

山口大隊ノ報告ニ依レバ十四日十時 十三時ノ二回ニ亘リ大場
挺進隊ハ西方第三「ロカン」ノ敵ヲ(脱?)高射砲、高射機關砲ヲ以テ
應戰セルモノノ如ク銃砲聲ハ逐次北方ニ移動シアルモノノ如シ
「サラモア」附近ニ對スル敵機ノ攻撃ハ毎日「B?」「二?」「四?」「B?
」「一七」等五、六〇機ヲ以テ一時間以上ニ亘リ入念ニ爆撃ス
防空壕モ崩壞シ屢々生垣トナルコトアリ

(終)

第三編



電報

ニ一七一
一六五二
四五二一
〇〇七〇
點受著發

昭和一八八一八

猛 部 隊 參 謀 長

通電先

次長 「サラモア」 「ラエ」 「ハンサ」
剛洋 洋戰 眞河 鑛

猛參電第四一四號

第二十師團司令部ハ十六日「クワトウ」(「ボガジム」西南二〇

斤)ニ前進セリ

(終)